

## 2 研究の実際

### (1) インターネット上のソーシャルスキルについて

近年の児童生徒同士の関わりにおいて、対面のコミュニケーションに加えてインターネット上のコミュニケーションの割合が増えてきている現状があります。そのため、よりよい人間関係を構築するための重要な要素であるソーシャルスキルを、インターネット上のコミュニケーションの場面でも発揮することができるようにするための学びが必要だと考えました。

#### ア インターネット上のソーシャルスキルを育成する活動プログラム

原田恵理子(2014)は、情報機器をコミュニケーションの一部として活用する実態から、「ネットやメール、SNS、LINE等の使用を禁止するよりも、使用に際しての在り方を問う教育をすることや情報社会で生きていく彼らのためにコミュニケーションの在り方を学ばせ、コミュニケーションスキルを向上させていくことが重要であると考えられる」<sup>(1)</sup>と述べています。このことから、児童生徒にインターネットに関する知識を学ばせ、日常生活の様々な場面で適切に状況を理解し、その場にふさわしい行動を行わせるための教育を、ソーシャルスキル・トレーニングの方法を活用して行うことが有効であると考えました。その際、インターネット上のコミュニケーションだけを切り離すのではなく、対面のコミュニケーションもバランスよく学ばせていくことが大切であると考えました。そこで、本研究における活動プログラムは、図1のH22・23年度佐賀県教育センタープロジェクト研究「よりよい人間関係を築く力を育成する支援の在り方—ソーシャルスキル・トレーニングに関する活動プログラムの開発—」における活動プログラムのモデルと同じ流れで構成することとしました。

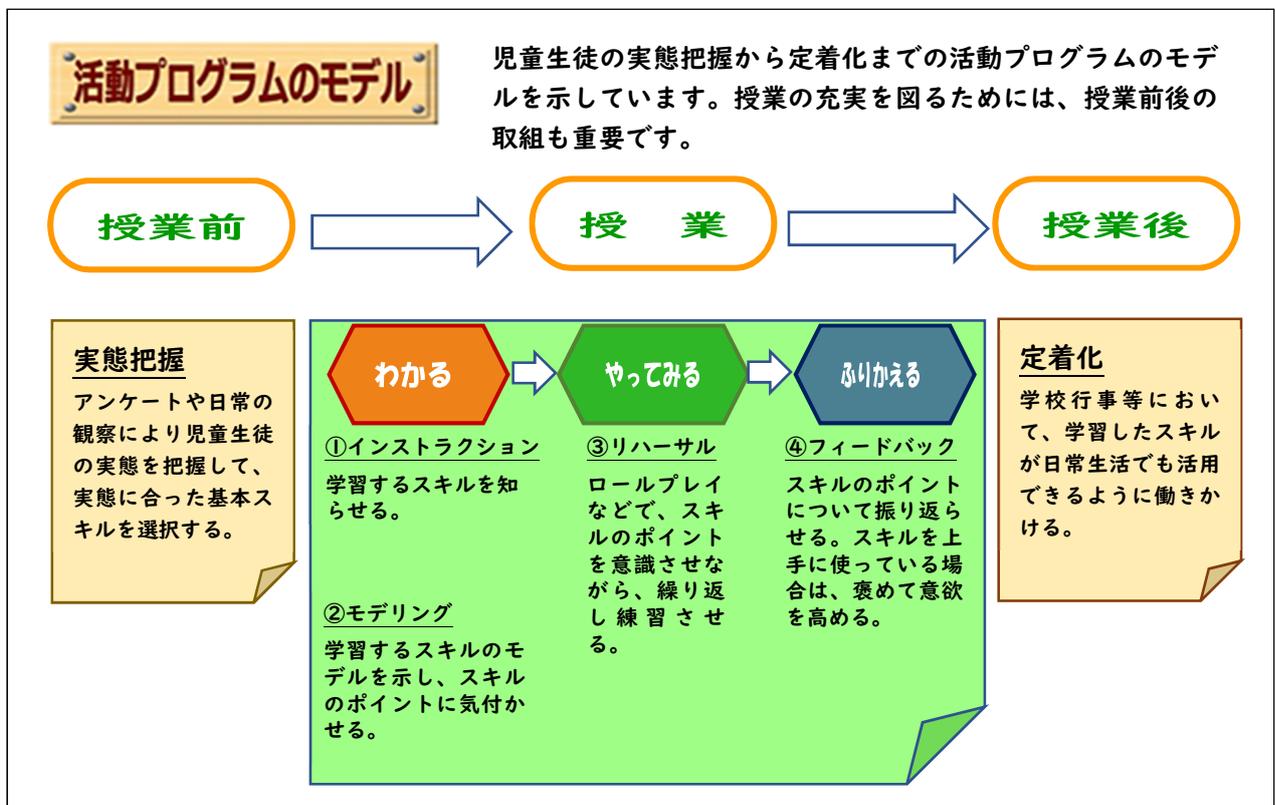


図1 活動プログラムのモデル

## イ 対面とインターネット上のコミュニケーションスキルの関連性

石川真（2020）は、円滑なインターネット上のコミュニケーションを実現するためのスキルに関する研究において、「オンラインコミュニケーションは、技術的側面に伴い通常のコミュニケーション時とは異なる環境ではあるものの、対人行動である。したがって、オンラインコミュニケーションでは、通常のコミュニケーションスキルが求められるのは明白」<sup>(2)</sup>と述べられています。このことから、H22・23年度佐賀県教育センタープロジェクト研究「よりよい人間関係を築く力を育成する支援の在り方—ソーシャルスキル・トレーニングに関する活動プログラムの開発—」における「12の基本スキル」(図2)を基に、インターネット上においてより円滑なコミュニケーションを実現するための活動プログラムを作成することが有効であると考えました。

本研究では、インターネット上のコミュニケーションにおいて、児童生徒が行動のイメージをもちやすくするために、不特定多数とではなく、一対一でのやり取りの場面を設定することとしました。活動の流れにおいては、インターネット上での具体的な行動のイメージを与えるために、対面でのやり取りのモデルであったものを、タブレット端末でのやり取りに変更したモデルを提示したり、そのやり取りを自分の身体を通して考え、実行できる機会を与えるために、実際にタブレット端末を使って体感させたりする活動を仕組みました。このような活動プログラムを提案することにより、対面とインターネット上のコミュニケーションの関連性を図りました。

児童生徒に必要とされる  
ソーシャルスキル

12の基本スキル (小林・相川)

①あいさつ

②自己紹介

③上手な聴き方

④質問する

⑤仲間の誘い方

⑥仲間の入り方

⑦あたたかい言葉かけ

⑧気持ちをわかって働きかける

⑨やさしい頼み方

⑩上手な断り方

⑪自分を大切にす

⑫トラブルの解決策を考える

図2 12の基本スキル

## ウ インターネット上のコミュニケーションの留意点

インターネット上のコミュニケーションは、基本的に文字を使ったやり取りであり、相手の表情や身振り、声の調子などの情報がない点が、対面のコミュニケーションとは違います。このように、インターネット上のコミュニケーションが対面のコミュニケーションと何が違うのか、その特徴を押さえて活動プログラムを作成する必要があります。原田（2014）は、「コミュニケーションをする上で非言語的スキルは重要な情報で、言語的スキルと非言語的スキルの両方を用いてコミュニケーションがなされている」<sup>(3)</sup>ことから、「非言語的スキルを意識した授業を展開したことも生徒にとってコミュニケーションをする上でのよきモデルになった」<sup>(4)</sup>と述べています。このことから、本研究における授業では、導入時に非言語的スキルの重要性を伝えながら、文字だけのやり取りが難しいことを感じさせるウォーミングアップの工夫が重要です。

### 《引用文献》

- (1)(3)(4) 原田 恵理子 「学年全体を対象としたソーシャルスキルトレーニングの効果の検討」『東京情報大学研究論集』 2014年 p. 2, p. 6, p. 7
- (2) 石川 真 「円滑なオンラインコミュニケーションを実現するためのスキルに関する研究」『上越教育大学研究紀要』 令和2年 p. 253